

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立熊野高等学校	入澤和彦
学校所在地		
〒649-2195 和歌山県西牟婁郡上富田町朝来670番地 tel 0739(47)1004 fax 0739(47)4200		
担当者名		役職名・担当教科
酒井久視／宮地良斉／後藤誠弥／中屋遼太		教諭・地歴公民科
<p>〔学校の概要〕 本校は和歌山県の中央部、田辺市・白浜町に隣接する上富田町に位置する。古くは“口熊野”とも呼ばれ、古道が本格的な山道〔中辺路〕に臨むところでもある。町内の八上王子・稲葉根王子は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録され、改めてその価値を再認識している。 本校は林業学校を前身とし、現在、看護科・総合学科の2科が設置されている。 純朴でどの子もよくあいさつをし、部活動に積極的である。 また、町内唯一の高校であることから、隣接の上富田中学校とは授業参観交流(教員)や部活交流を行い、上富田町とは学校クラブ サポーターズリーダーを中心に、イベントへのボランティア参加や合同防災訓練、地域の高齢者への声かけ等を行っており、地域との関わりが深い学校である。 なお、1学年では平成16年以来、学年の学習として熊野古道ウォークを実施している。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等(延人数)	主な活動場所
学年2年生 27名	3名 職員 4名	本校会議室
実践研究テーマ		
世界遺産・熊野古道と地域の歴史・文化		
実践教科等名	単元名	
社会文化研究(地歴公民科)	地域の歴史文化	
<p>〔キーワード〕 世界遺産 熊野古道 情報発信 地域 上富田 観光</p>		
<p>〔単元目標〕 (1)世界遺産が設けられた経緯や意義、世界・国内の遺産の状況など基本的な事項について理解する。 (2)「紀伊山地の霊場と参詣道」に関する基本的な知識について学ぶとともに、世界遺産としての熊野古道がどのような価値を持つものなのかを理解する。 (3)(1)(2)での理解を踏まえ、現地学習を通して熊野古道の魅力を体験的に学び、高校生視点からその魅力や価値、保全のあり方について考える。 (4)フォトエッセイ作成を通して、これまでの学習や体験で得たことを情報発信する立場からまとめる。</p>		
<p>〔学習に当たった全学習時間数(世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名/教材名)〕 全体 50 時間 (「世界遺産・熊野古道と地域の歴史・文化」 6 時間)</p>		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕 和歌山県世界遺産センター 世界遺産講座 講師 熊野古道フィールドワーク 講師・ガイド</p>		

実践に関する事項

〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	世界遺産入門 紀伊山地の霊場と参詣道(1)	ワーク時における巡回指導を行うとともに、活発な学習を促す。	〔関心・意欲〕 グループワークへの参加・ワークシート 〔知識・理解〕 ワークシート
2	(2) 世界遺産センター職員による講義とワークショップを通して、「紀伊山地の霊場と参詣道」について、基本的な知識〔ルートや王子とは何か等〕や「文化的景観とは何か」について学習する。		
3	熊野古道フィールドワーク	高校生自身が感じる熊野古道の魅力をテーマに、和歌山県世界遺産センター職員の方々のガイドのもと滝尻王子から高原熊野神社までを歩く。 今回は熊野古道フォトエッセイ作成のため、各自デジタルカメラを持ち、古道の魅	〔関心・意欲〕 〔思考・判断〕 観光からみた熊野古道の魅力を体感し、その発信のための情報を収集する。
4			
5	熊野古道フォトエッセイ作製	フィールドワークでの写真とインターネットでの調べ学習をもとに、生徒自身が感じた古道の魅力を発信するためのフォトエッセイを作製する。	〔技能・表現〕 作製したフォトエッセイ
6	古道パンフレット発表会	前時に作製したフォトエッセイの発表を行う。	〔知識・理解〕 〔思考・判断〕 〔技能・表現〕 パンフレット発表

〔単元学習の成果と課題〕

本単元は、年間の主要な学習主題の1つである。講義とフィールドワークをセットで実施することで、世界遺産の意義から熊野古道が世界遺産としてどのような価値を持つのかを知識と体験から学ぶことができた。知識については、定期考査とリンクさせることで定着をはかった。学習のまとめとして、フォトエッセイづくりを行った。フィールドワークは学んだ知識を確かめる機会であると同時に、カメラを使うことで、生徒自身や他の生徒が古道をどのような感性で捉えたのかをダイレクトに確かめることができる。

時数の関係で実現できていないが、互いに感じた古道の魅力を別の形でまとめ、さらに今後の古道がどのようにあるべきか、自身がかかわるとすればどのようなことなのか？このような観点からのワークを行い、深める必要がある。

〔世界遺産学習の効果〕

世界遺産講座を通して、世界遺産としての熊野古道の価値を学ぶことができているので、単に自然豊かな山道という理解からは脱却できている。また、外国からの観光客が多いこと(コロナ禍前)を学ぶことで、日本、紀伊半島の文化について、改めて見直すことができる貴重な機会となっている。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

入門講座やフィールドワーク後の授業でも扱っているが、古道は守り伝えるもので、少なからず生徒自身も主体的に関わることができるものであることを、語り部や道普請の取り組みをより具体的に考えるワークを充実させたい。

また、上富田町内の八上王子・稲葉根王子が世界遺産に追加登録されていることから、町や地域の取り組みを含め、学習教材として取り上げたい。

様式 2

令和2年度 次世代育成事業における学習記録

[学習記録・活動写真]

熊野古道フィールドワーク[令和3年2月2日(火)実施]

2年生27名(2班編成)が参加した。滝尻王子～高原熊野神社を歩く。ポイントで世界遺産センター職員からの説明を聴くとともに、フォトエッセイ作成のため、各自が魅力に感じた風景を撮影しながら、フィールドワークを行った。

《日程》

13:20 滝尻王子

15:30 熊野高原神社

熊野古道フォトエッセイ作品例

各自が写真を取り、パンフレットづくりを行った。パンフと言いながら、エッセイ風の仕上がりとなっている。古道に関する情報は200字程度におさえ、写真の説明や感じたことを中心に記述している。

熊野古道の光

～滝尻王子～

滝尻王子は富田川と石川が合流する地点に鎮座します。かつてはこの王子社が熊野三山の霊域のはじまりとされてきました。

滝尻王子は、熊野九十九王子社のうち五体王子社にも数えられ、中世に熊野御幸が盛んであった頃には、皇族貴族により奉幣や願経の他、法楽のための至神楽や歌合が盛大に催されました。

平安時代後期には藤原秀重の菩提により四町歩(1万2千平方メートル)の境内に、七堂伽藍が建立されていたといわれています。

～熊野古道の魅力～

この写真を撮った時は木と木の間から差し込む太陽の光がとても印象的で今まで歩いてきた疲れも全てが吹き飛んでしまうくらい感動しました。

熊野古道は美しい自然と今までの歴史を一度に体験できる素晴らしいところです。

山の中なので、足元は濡く、取道などのとても険しい道のりです。

なので、とてもしんどく途中で帰りたいなって思ってしまうけど綺麗な風景と自然や

昔の人が作り上げてきた歴史と伝統を感じながら歩くのが頑張ろうと思えます。

私は体力がなくなりに疲れてしまうので、7時間30分ずつ歩き続けるのが地獄のように感じましたが、

しんどい思いをしてまで歩く価値があると、思いました。途中で唐の花があり、とても綺麗でした。見上げた時に

見える木と木の間の太陽の光や、

上から見る建物や景色、空が近くに感じる感じがとても良かったです。

すごくいい体験ができたと思いました。



熊野古道の素晴らしい絶景

滝尻王子～高原熊野神社について

滝尻王子

熊野九十九王子のうちの最も重要視された社格の高い王子の一つです。熊野の神域の入り口とされ、川沿いの道から山中へと入ります。滝尻王子の裏手から熊野古道の面影が残る急な石段を登っていきます。いきなりの急な登りですが、ゆっくりと上がっていきます。

胎内くくり

20分ほど上ると、古道に沿って横たわる巨岩にぽっかりと穴が空いている「胎内くくり」があります。一人がやっと抜けられるくらいの大きさで、女性がくぐれば安産すると伝えられています。

剣山経塚跡

急な上りはここまでです。ここからは少しなだらかな山道となり、下っていくと舗装道路と交差します。道路を渡ると再び急な階段状の上りが続きます。登りきれば人家があり、少し歩けば高原熊野神社に至ります。

高原神社と休憩所

高原神社の先に、「高原霧の里休憩所」があり、トイレや自動販売機などがあります。眺望もよく美しい山上の里です。

この写真は、展望台から撮った写真です。展望台からの眺めはとても良く、とても空気が澄んでいるように感じました。展望台は、かなり上ってきたところにあるのでとても寒かったです。でも、この景色を見ると今までの疲れが一気に吹き飛んだように感じました！ぜひ来てみてください！

